

江戸時代の一宮の市といえば、かつて大きな賑わいを見せたことで知られています。また、その市の主役は牛馬であったとされ、牛馬市の開催場所として有名ですが、実際にはそれだけではなく、通常の市と同じく様々な物資の売買が行われていました。そのため多くの人々で賑わい、店や宿泊施設、見せ物小屋などが建ち並び、文字通りの「市町」が出現するのです。

「町奉行日記」などの記録によると、一宮の市町は4月の午の日に催される中山神社の田植え祭りから始まり、5月4日に終わります。その間、津山藩としては特別な対応が必要となり、御徒目付配下の御徒組、町奉行配下の同心組、郡代所の下代、物頭配下の足軽、寺社取次配下の下代などが出役し、大掛かりな体制で警備に当たります。

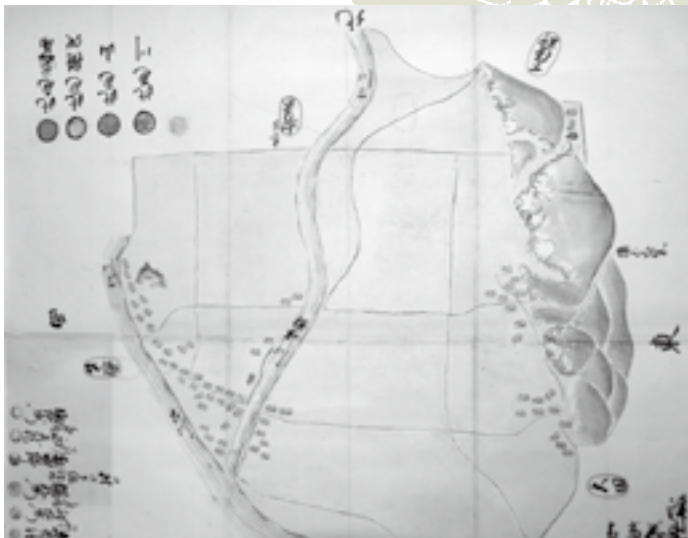
しかし、1カ月近くになる市町の期間中、常に芝居などの興行が行われて賑わうわけではありません。見せ物のない日もあり、そうした時には人も少なく、警備に出ていた同心たちも早々に引き上げました。

市町で興行する芸人たちは、城下町の商人を世話役として頼み、世話役が町奉行所の許可を取るなどの業務を行います。市町にやって来る芸人たちは様々で、人形芝居・曲馬乗り・まんざい芝居・女力持ち・軽業芝居など色々な見せ物があり、芸人たちの多くは関西地方を始めとする他国からやってきました。

また、芝居興行などは市町に限らずいつでも開催されており、城下町での興行と一宮の市町が重なると、城下町の警備人員が不足するため、他の

津山城百聞録

～一宮の市町の警備～



▲村絵図（左中央あたりが市町の場所）

部署から臨時に派遣してもらわなければなりません。そのため、市町の始まる前から興行を行っていた芸人から延長願いが出されても、許可にならないこともありました。

市町が終わる日を当時は市上がりといい、この日の前後には、市町での商売や興行を引き払った人たちが城下町に入ってくるため、町奉行所では特に厳重な警備体制を敷きました。町奉行所が警戒したのは、こうした一般の人々に紛れて流入して来る犯罪者で、万人講※などと同様に多くの人が見込まれる時には、特に注意して治安の維持に当たったのでした。

※富くじのこと

つやま
広報

11月号

平成19年
2007
637号

TSUYAMA CITY
Public Relations Magazine

編集・発行（毎月10日発行）

津山市企画部市長公室（市役所3階）
〒708-8501 岡山県津山市山北520番地
☎0868-23-2111(代) ☎0868-32-2152
Eメール kouhou@city.tsuyama.okayama.jp

☆広報つやまはホームページで閲覧できます。
<http://www.city.tsuyama.okayama.jp/>



「ごんごバスにゆられて」で触れた岸田吟香の特別展「美作に残る岸田吟香の足跡～坪井の安藤家資料を中心として～」を11月18日まで洋学資料館で開催しています。郷土が育てた偉人の足跡をたどってみてはいかがでしょうか。(2)

先日、ある保育園の側を通り掛かると、子どもたち数人で「ソーヤレ、カンカンカン、ソーヤレ、カンカンカン」と歌っているのが聞こえてきました。市内各地で行われた秋祭り。子どもたちの心にしっかり焼き付いているようです。(和)



つぶやき

編集室

10月から新しく広報担当になりました。取材に広報作成にと初尽くしの1カ月。あつという間に過ぎてしまいました。毎日が新しい発見と驚き、失敗の連続でしたが、新鮮な日々でした。これからも今の気持ちを忘れずに。(6)



9月中のひとの動き

人口	110,554人(前月比△25)		
男	52,750人(同△13)		
女	57,804人(同△12)		
世帯	43,669世帯(同+21)		
転入	221人	転出	247人
出生	70人	死亡	69人
(10月1日現在)			



広報つやまは、環境保護のため古紙配合率100%再生紙、大豆油インキを使用しています。読み終えた後はリサイクルにご協力ください